

- 一二、光學の大要（反射、屈折、光の速度、干涉、偏光、スペクトル、輻射、吸収、廻折等）
- 一三、磁氣及靜電氣
- 一四、電流（抵抗、熱作用、磁氣作用、機械的作用、電磁感應、直流並交流等）
- 一五、電氣振動、電磁波
- 一六、光の理論の變遷
- 一七、氣體の電氣傳導、真空放電（陰極線、X線等）
- 一八、電子論
- 一九、放射能
- 二〇、量子論
- 二一、自然の連續性及不連續性
- 二二、自然界に於ける週期性
- 二三、自然現象の可逆及不可逆
- 二四、相對論

## 化 學

- 一、自然科學に於ける化學の位置
- 二、物質の純非
- 三、元素と化合物、化學量論の諸定律
- 四、分子説、原子説、其の論據
- 五、化學記號、化學方程式、原子價、構造式
- 六、炭素の化學
- 七、熱化學（反應熱、發熱反應、吸熱反應等）
- 八、可逆反應と不可逆反應、化學平衡
- 九、活動量の定律、フントフ及ルシャテリエの原理
- 一〇、反應速度論、觸媒
- 一一、主なる金屬の化學
- 一二、合金
- 一三、溶液、滲透壓

- 一四、電氣化學（電解傳導、電池等）
  - 一五、分析化學の大要
  - 一六、膠質化學
  - 一七、大氣
  - 一八、燃燒、燃料
  - 一九、化學工業の原料と製品
  - 二〇、油脂、炭水化物、醱酵
  - 二一、蛋白質、榮養品、嗜好品
  - 二二、飲料水、用水
  - 二三、呼吸及消化の化學
- 備考 一、此の要目は自然科學の教授上主として準據すべき物理及化學に關する主なる教材を擧げたるものなり、但し教材の選擇及排列は必ずしも之に據るを要せず。
- 二、物理と化學との授業時數は略同一とし適宜増減するを得るものとす。
- 三、此要目は現行中學校教授要目に據り第四學年を修了したる者を標準として作製せり。（完結）

（岸 田 久 吉）

## 學術研究會議の歐文輯報發刊

文部省內 學術研究會議 會長工學博士男爵古市公威氏から大正十一年二月二日附で本會會頭宛に左記の要領を含む手紙が送來されました。

「前略」從來本邦に於て發表せられたる學術研究上の論文にして汎く歐米諸國に紹介せられたるもの甚だ尠きは遺憾の至に存候。之れ畢竟是等論文の多數が邦語を以て著はさるるが爲に有之候も發表機關の區々にして其の間何等聯絡統一の存する所なく隨て讀者に不便を與ふる事尠からざるも亦之れが一因を爲せるものなりと思考致候。依て今般 本會議に於て歐文輯報を發刊し之をして本邦に於ける學術研究の中樞發表紹介機關たらしめんことを期することと相成候。而して右

輯報には研究論文の原著の外は等原著の抄録を成るべく網羅せんことを期する次第に有之抄録は原著者の自作に係るものを尊重すること勿論の儀に御座候。就ては輯報發刊の趣旨を御褒賞被成下候て貴學會に於ける研究業績は爾後成るべく右輯報上に於て發表相成候様御配慮相煩度尙又研究論文の原著者が其の抄録を自作し原著と共に之を本會議に提出せらるゝ様御勸奨被成下度此段及御依頼候(後略)

而して同會議の編纂出版事業内規一部が參考の爲めに添付せられてありますから本會々員に其の概要を御報導申します。

一、出版物(Publication)の種類。本會議は本邦に於てなされたる學術研究の原著(Transactions)並に其の抄録(Abstacts)を編纂し日本何學輯報(Japanese Journal of Zoology)として之を公刊す……本會議は會務其の他の本邦學術界に於ける重要事項の記事を編纂し別に會報(Proceedings)として之を公刊す。

二、編纂出版機關 各學術部に編纂委員を置き當該部に於ける輯報編纂事務は同委員之を掌る、但し會則第十三條に依り會員以外の者を委員に加ふることを得。輯報の編纂出版に要する經費は會長之を各學術部に配當す。總務部に常任編纂出版委員を置き各學術部より一名宛之を選出す。……常任編纂出版委員は本會議に提出せられたる論文及抄録につき取捨加筆することあるべし。

三、輯報の體裁 表紙の體裁省略、輯報の各卷(Volume)は適宜之を新冊(Parts)に分つも妨げなし。輯報の大きさを定むること次の如し、紙面縦二六・五糎、幅一九・二糎。印刷面 縦(頁の上段にある標記 Heading を含ます)一七・九糎、幅一二糎。本文の活字及一頁の行數(標記を含ます)は原著にありてはスモールペイカ三十九行、抄録にありてはプーミヤ五十行とす。原著と抄録とは頁附を別にす、但し抄録の頁附は九括弧内に入る。一卷を分冊するも各冊の頁附は更新せず。原著は各論文毎に新に奇數の頁

より始めて印刷す。抄録には掲載順に依り一卷を通じて番號を附す。原著に番號を附するは部の隨意とす。圖版には一卷を通じローマ數字にて番號を附し數字の前に「Pl」の文字を記入す。

四、原著編纂の方針 原著は著者の國籍如何を問はず凡て本邦に於て發表するを適當と認むるものに就き之を採録す。原著は英佛獨語中の何れかを以て著はされたるものに限る、但し場合に依り他の外國語を以て著はされたるものも特に之を採録することあるべし。邦語を以て著はされたる論文にして特に價值ありと認むるものは著者の希望を參照し英佛獨中の何れかに翻譯し、之を登載することあるべし。

五、原著印刷指針 論文の番號はゴシック體アラビア數字。表題もゴシック體。著者の姓名は節略することなく且つ名を先に姓を後にすること、文字はゴシック體とし姓の全部と名の首字とは大文字とす、學位の記載は著者の任意とす、著者の學界に於ける地位又は官職名は成るべく記載すること。圖版ある場合には圖版番號を括弧内に記載し之を示すこと。前項の次に研究の場所及受理の時日等を記載す。(例省略)……脚註(Foot Note)は括弧内に入れたるアラビア數字を以て之を示す、脚註と本文との境界には長さ六糎の横線を引くこと……。

六、抄録編纂の方針 本邦に於て發表せられたる論文の抄録は著者の國籍と用語とを問はず努めて之を網羅すること。本會議は本邦各大學研究所學會等に照會して其の機關出版物に發表せられたる論文の抄録を著者より提出せられんことを求むべし。前項以外の論文と雖も公表せられたるものは努めて其の抄録を蒐集すること。抄録を提出する際には成るべく原論文を添へしむべし。抄録は英佛獨語中の何れかを以て作製せられんことを其向に照會し、其他の國語を以てしたる抄録の提出ありたる場合には本會議に於て便宜之を英佛獨語中の何れかに翻譯すべし。同一論文に關する抄録を二種以上の輯報に掲載すること妨げず。抄録は場合により單に論文の表題著者の姓名出所刊行の年月等のみ

を掲載するに止むることあるべし。抄録の作製及提出に要する費用は學會等を個人とを問はず必要に應じ本會議之を補助することあるべし。

### 七、抄録印刷指針

逐號刊行物録所載論文の抄録にありては番號は單行本の抄録の番號を相通ぜしむること、表題は原文の儘全文又は之を翻譯したるものを記載すること、但し原文が英佛獨語以外のものなる場合には表題の終りに其何れの國語を以てせるかを括弧内に記すること、文字は普通のローマンを用ふ。原論文の掲載せられたる出版物の名稱の略字はなるべく萬國理學文書目錄所定のものに從ふこととし夫れ以外のものに就ては各學術部に於て便宜之を一定し會長に報告すべし。輯 (Index) の番號はローマンを用ふること。卷 (Volume) 數はゴシック體アラビア數字を用ひ其の公刊年號は括弧内に入れ卷數に續けて記す。單行本にありては書名は原文の儘全文又は之を翻譯したるものを記載すること文字はゴシック體を用ふ、但し原文が英佛獨語以外のものなる場合には書名の終りに其の何れの國語を以て著はされたるかを括弧内に記すこと、文字は普通ローマンとす。著作が完了せざるものに就ては其の公刊せられたる部分のみの卷數及年號を示す。出版の地名は扉頁 (Title page) に示されたるものを記す。各抄録の終りに抄録者の姓名又は其の節略したるものを記すること、若し抄録者が原著者なるときは單に Author と記す。若し又原著者の作製したる抄録を翻譯して掲載する場合には其の旨を括弧内に記す (Author (Tr. by N. OKADA) の如く)。其他は原著印刷指針に準ず。

### 八、索引 (Index) 扉頁 (Title page) 及目次 (Contents)

作製指針 輯報には毎卷の終りに其の各扉頁及目次を添附すべし。

索引は件名、人名、學名、地名等に就き之を別に作ることなく凡て之を總括し必要に應じて其の字體を區別すること妨けず、索引中の人名は姓を先に名を後にし其間にコンマ (,) を附す。

九、附則 輯報の抄録は一九二一年公刊の論文及單行本より之を行ふものとす。論文の表題、單行本の書名中にある邦語に並著者の姓名をローマ字綴りに改むる場合に

は凡て原著者の爲す所に從ふ、其の場合に於ては抄録者の隨意とす。出版物は之を内外の學界に配布することとし、配布先は各學術部に於て決定し本會議會長に申出つべし。(後略) (岸田久吉)

## 會員動靜

飯島先生紀念號に全然雜報を掲げぬこととなり、且つまた其れ以前の二月號をも第百頁限りにて打切る必要ありしこと等の爲め、一般に雜報の遅延、滞積を來たしたるは當事者の遺憾に堪へざる所、惡からず讀者の御諒察下さることを願ふ。

○昨年夏、歐米巡遊の途に上られたる水産講習所技師梶山英二氏は二月三日無事歸朝せられたり。

○大島廣氏は兼て、ヨーロッパ諸國並びにアメリカに遊學中にて、其の消息は各地より本誌の爲めに寄せられたる同氏の有益なる通信によりて我等が其の都度承知したる所なるが二月四日横濱入港の便船にて恙なく歸朝せられ一旦上京、動物學教室を訪はれたる上、新任地なる福岡に赴かれたり。

○新たに東大、醫學部助教授となられし森於菟氏は解剖學研究の爲め留學を命ぜられ、三月上旬の便船にてドイツに向け出發せられる。

○在朝鮮京城の森爲三氏は四月初め、二年間の豫定を以て歐米巡遊の途に上られたり。

○梶原一雄、篠内收、向坂進、高木正得及び田上光の五氏は今春首尾よく東大、動物學科の課程を卒へて、新たに理學士となられ、梶原、向坂の兩氏は更らに九州大學の醫學部に入學、他の三氏は東大、大學院に於て更らに各自の